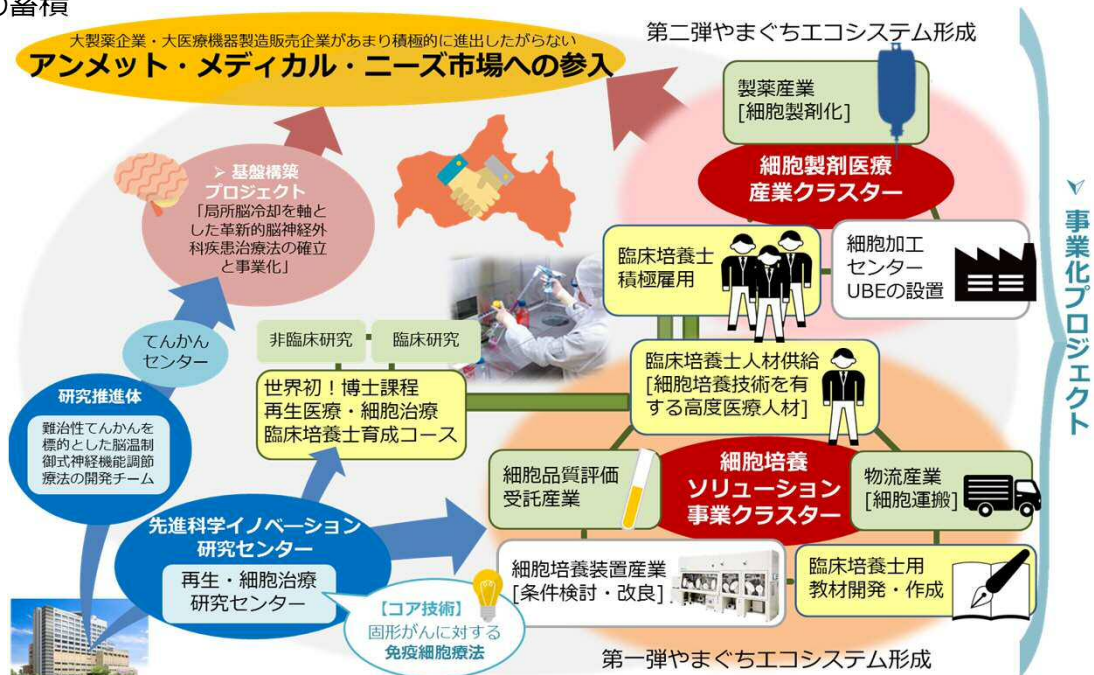


◆プロジェクトの特徴：

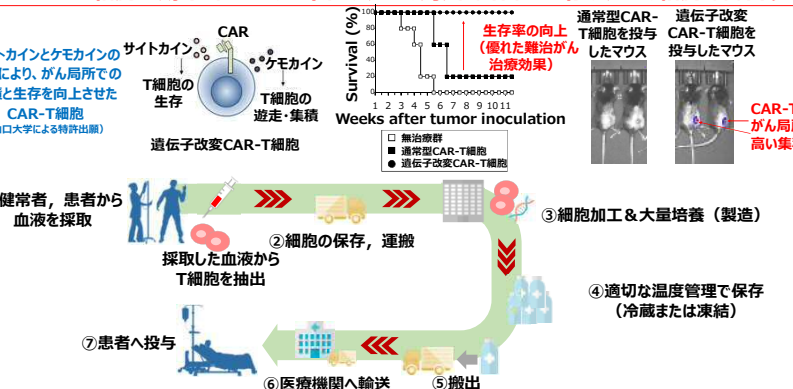
- I. 山口県の地域課題と、地域としての医療産業の推進・支援・実績としてのコア・コンピタンスを活かす
- II. 山口大学の革新的コア医療技術シーズに着目し、大学の使命として、既存医薬品では満たされていない患者の医療ニーズ、アンメット・メディカル・ニーズ市場の新開拓に挑む。
 - i)患者数が多く、治療薬を必要とする声が多い疾患生活習慣病、癌などを指す。→事業化プロジェクトA
 - ii)患者数は少ないものの、治療薬の必要性が高い疾患患者数が5万人未満（厚生労働省の定義による）の、いわゆる希少疾患と呼ばれる難病を指す。これらの希少疾患に効果がある治療薬は「オーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）」と呼ばれる。→基盤構築プロジェクト
- III. 地域でコア技術のインキュベーションとサプライチェーン補完、コア医療技術人材育成や産学公連携によるプロジェクト運営ノウハウの蓄積



事業化プロジェクトA 細胞製剤をgoalとした医療産業実現のための プロセス構築およびサプライチェーンの事業化 (免疫学・玉田 耕治 教授)

がんに対する革新的先端医療技術の中で、免疫に関与する細胞（T細胞）に遺伝子の改変技術を加えたCAR-T細胞療法は、近年特に高い期待を受けている。このCAR-T細胞療法に対し、現在基礎研究段階も含め結果を出している有望な手法シーズの一つについて、山口大学で特許を取得した。この技術を活用し、バイオベンチャーと共に、事業化の鍵となる「難治がんに対する次世代型他家CAR-T細胞の大量培養法の確立」および「細胞培養の自動化システムにおける基盤技術の開発」を目指す。

難治がんに対するCAR-T細胞療法の適応拡大を達成するために必要な技術改良
⇒CAR-T細胞が効率的にがんを集積し、がん局所で増殖・生存し、がん細胞を傷害する



基盤構築プロジェクト 局所脳冷却を軸とした革新的脳神経外科疾患 治療法の確立と事業化 (脳神経外科学・鈴木倫保 教授)

本プロジェクトはコア技術「局所脳冷却」を使い、難治性てんかんや重症脳卒中などに対する新しい治療法を提案する。本プロジェクトの開発が進むことにより、現在難治性てんかん患者の薬代年間約1140億円の医療費削減が見込まれる。

